

第13条 キックオフと試合再開のキック



定義

キックオフは、試合の各ハーフおよび各延長時間の開始時に行われる。試合再開のキックは、得点後またはタッチダウン後に行われる。

13.1 キックオフの場所と方法

- キックオフを行う側は、ハーフウェイラインの中央、またはその後方からドロップキックで行わなければならない。
- 正しい方法で、または正しい位置からキックされない場合、相手側は次の2つのうち1つを選択する。

- ・ふたたびキックオフを行わせる、または
- ・ハーフウェイラインの中央においてスクラムを組み、キックオフをしなかった側がボールを入れる。

13.2 キックオフを行う側

- 試合の開始時に、トスに勝ちキャプテンがキックを選択した側、またはトスに勝ったキャプテンがサイドを選んだ場合は相手側がキックオフを行う。
- ハーフタイム後は、試合の開始時にキックオフをしたチームの相手側が試合を再開する。
- 得点後は、得点したチームの相手側がキックオフを行う。

13.3 キックオフ時のキッカー側のポジション

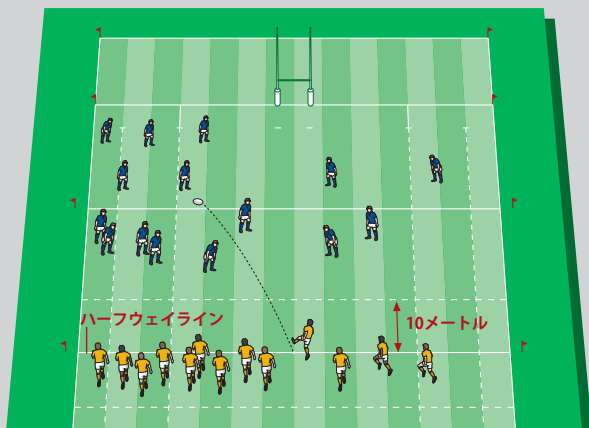
キッカー側はすべて、キックする場合には、ボールの後方にいなくてはならない。これに反するときには、ハーフウェイラインの中央においてスクラムを組み、相手側が入れる。

第13条 キックオフと試合再開のキック



13.4 キックオフ時の相手側のポジション

相手側はすべて、ハーフウェイラインから10メートル以内に立つてはならない。10メートルラインを越えて位置したり、ボールがキックされないうちにチャージした場合には、ふたたびキックオフを行う。



キックオフ

13.5 10メートルラインに達したキックオフ

ボールが相手側の10メートルラインに達するか、10メートルラインに達した後、吹き戻された場合にも、競技を続ける。

第13条 キックオフと試合再開のキック



13.6 10メートルに達しないキックオフが相手側にプレーされた場合

相手側の10メートルラインに達しないが、相手側が最初にプレーした場合、競技を続ける。

13.7 10メートルに達しないキックオフが相手側にプレーされなかった場合

ボールが相手側の10メートルラインに達しない場合、相手側は次の2つのうち1つを選択する。

- ふたたびキックオフを行わせる、または
- ハーフウェイラインの中央においてスクラムを組み、キックオフをしなかった側がボールを入れる。

13.8 ボールが直接タッチになった場合

ボールはフィールドオブプレーに着地しなければならない。キックしたボールが直接タッチになった場合には、相手側は次の3つのうち1つを選択する。

- ふたたびキックオフを行わせる、または
- ハーフウェイラインの中央においてスクラムを組み、キックオフをしなかった側がボールを入れる。または
- そのキックを認める。

相手側がそのキックを認めた場合、ラインアウトはハーフウェイライン上で行う。ボールがハーフウェイラインの後方に吹き戻され直接タッチになった場合には、ラインアウトはボールがタッチになった地点で行う。

第13条 キックオフと試合再開のキック



13.9 ボールがインゴールに入った場合

- (a) キックオフのボールがプレーヤーに触れずにあるいは触れられることもなく相手側のインゴールに入った場合、相手側は次の3つのうち1つを選択する。
- ・ボールをグラウンディングする、または
 - ・ボールをデッドにする、または
 - ・プレーを続行する。
- (b) 相手側がボールをグラウンディングするか、デッドにするか、またはボールがタッチインゴールに出たり、デッドボールラインに触れるか越えるかしてデッドになった場合、相手側は次の2つのうち1つを選択する。
- ・ハーフウェイラインの中央でスクラムを組み、キックオフをしなかった側がボールを入れる、または
 - ・ふたたびキックオフを行わせる。
- (c) 相手側はボールをグラウンディングしたり、デッドにしようとする場合は、遅滞なく行わなければならない。ボールを持っている防御側プレーヤーのその他の動きはすべてそのプレーヤーがプレーをそのまま続けることを選んだものとみなす。

13.10 ドロップアウト

定義

ドロップアウトは防御側によって行われるドロップキックのことである。ドロップアウトは、22メートルライン上、またはその後方の任意の地点から行う。

ドロップアウトは、攻撃側が反則をしないでボールをインゴールに持ちこみ、防御側がボールをそこでデッドにするか、ボールがタッチインゴールに出るか、デッドボールライン上またはデッドボールラインを越えた場合に、競技を再開するために行われる。

13.11 すぐに行わなかったドロップアウト

ドロップアウトは遅滞なく行わなければならない。

罰：22メートルライン上においてフリーキック

第13条 キックオフと試合再開のキック



13.12 正しく行われなかったドロップアウト

キックが正しい方法や場所で行われなかった場合は、相手側は次の2つのうち1つを選択する。

- ふたたびドロップアウトを行わせる、または
- 22メートルラインの中央においてスクラムを組み、キックをしなかった側がボールを入れる。

13.13 22メートルラインを越えなかったドロップアウト

- (a) ボールが22メートルラインを越えない場合は、相手側チームは次の2つのうち1つを選択する。

- ふたたびドロップアウトを行わせる、または
- 22メートルラインの中央においてスクラムを組み、ドロップアウトをしなかった側がボールを入れる。

- (b) ボールが22メートルラインを越えた後、吹き戻された場合には、競技をそのまま続ける。

- (c) ボールが22メートルラインを越えなかった場合はアドバンテージルールを適用する。相手側はそのボールをプレーしてトライをすることができる。

13.14 直接タッチになったドロップアウト

ボールはフィールドオブプレーに着地しなければならない。キックしたボールが直接タッチになった場合には、相手側は次の3つのうち1つを選択する。

- ふたたびドロップアウトを行わせる、または
- 22メートルラインの中央においてスクラムを組み、ドロップアウトをしなかった側がボールを入れる、または
- そのキックを認め、投入は22メートルライン上で行う。

第13条 キックオフと試合再開のキック



13.15 ドロップアウトからボールがインゴールに入った場合

- (a) ドロップアウトのボールが、プレーヤーに触れずに、あるいは触られることもなく、相手側のインゴールに入った場合、相手側は次の3つのうち1つを選択する。
- ・ボールをグラウンディングする、または
 - ・ボールをデッドにする、または
 - ・プレーを続行する。
- (b) 相手側がボールをグラウンディングするか、デッドにするか、またはボールがタッチインゴールに出たり、デッドボールラインに触れるか越えるかしてデッドになった場合、相手側は次の2つのうち1つを選択する。
- ・ドロップアウトの行われた22メートルラインの中央でスクラムを組み、ドロップアウトをしなかった側がボールを入れる、または
 - ・ふたたびドロップアウトを行なわせる。
- (c) 相手側はボールをグラウンディングしたり、デッドにしようとする場合は、遅滞なく行わなければならない。ボールを持っている防御側のプレーヤーのその他の動きはすべて、そのプレーヤーがプレーをそのまま続けることを選んだとみなす。

13.16 キッカー側

- (a) キッカー側はすべて、キックをするとき、ボールの後方にいなくてはならない。これに反するとき、22メートルラインの中央でスクラムを組み、相手側がボールを入れる。
- (b) ボールの前方から戻りつつあるキッカー側のプレーヤーは、キックが非常に早く行われたために退くことができなかった場合には、罰せられない。そのようなプレーヤーは味方の行為によりオンサイドとなるまで退くことをやめてはならないし、競技に参加してはならない。
- 罰：22メートルラインの中央でスクラム、反則しなかった側がボールを入れる。**

第13条 キックオフと試合再開のキック



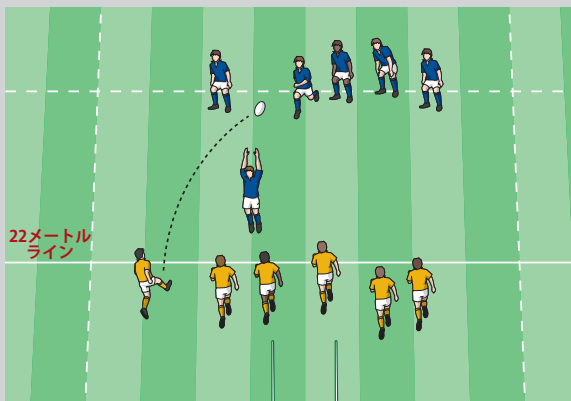
13.17 相手側

- (a) 相手側は、ボールがキックされる前に22メートルラインを越えてチャージしてはならない。

罰：反則の地点でフリーキック

- (b) 相手側プレーヤーが22メートル区域の中にとどまり、ドロップアウトを遅らせるか妨害した場合、そのプレーヤーは不行跡として扱われる。

罰：22メートルライン上でペナルティキック



ドロップアウト